



バックアップと復元

- [UCS でのバックアップの操作, 1 ページ](#)
- [バックアップ操作の考慮事項と推奨事項, 1 ページ](#)
- [バックアップ操作とインポート操作に必要なユーザ ロール, 3 ページ](#)
- [バックアップ操作の作成, 3 ページ](#)
- [バックアップ操作の実行, 8 ページ](#)
- [バックアップ操作の変更, 9 ページ](#)
- [1 つまたは複数のバックアップ操作の削除, 10 ページ](#)
- [バックアップ タイプ, 10 ページ](#)
- [システムの復元, 22 ページ](#)

UCS でのバックアップの操作

Cisco UCS Manager からバックアップを実行する場合は、システム設定全体またはその一部のスナップショットを作成し、そのファイルをネットワーク上の場所にエクスポートします。Cisco UCS Manager を使用してサーバにデータをバックアップすることはできません。

バックアップは、システムが起動されて動作している間に実行できます。バックアップ操作では、管理プレーンからの情報だけが保存されます。バックアップは、サーバまたはネットワーク トラフィックには影響しません。

バックアップ操作の考慮事項と推奨事項

バックアップ操作を作成する前に、次のことを考慮してください。

バックアップの場所

バックアップ場所とは、Cisco UCS Manager でバックアップ ファイルをエクスポートするネットワーク上の宛先またはフォルダのことです。バックアップ操作は、バックアップ ファイルを保存する場所ごとに1つしか保持できません。

バックアップ ファイル上書きの可能性

ファイル名を変更しないでバックアップ操作を再実行すると、サーバ上にすでに存在するファイルが Cisco UCS Manager によって上書きされます。既存のバックアップファイルが上書きされるのを回避するには、バックアップ操作内のファイル名を変更するか、既存のファイルを別の場所にコピーします。

バックアップの複数のタイプ

同じ場所に対して複数種類のバックアップを実行し、エクスポートできます。バックアップ操作を再実行する前に、バックアップタイプを変更します。識別を容易にし、また既存のバックアップファイルが上書きされるのを回避するために、ファイル名を変更することを推奨します。

スケジュール バックアップ

バックアップ操作を前もって作成し、そのバックアップの実行準備が整うまで管理状態を無効のままにしておくことはできます。Cisco UCS Manager は、バックアップ操作の管理状態がイネーブルに設定されるまで、バックアップ操作を実行したり、コンフィギュレーション ファイルを保存したり、エクスポートしたりしません。

増分バックアップ

差分バックアップは実行できません。

完全な状態のバックアップの暗号化

パスワードなどの機密情報がクリア テキストでエクスポートされないように、完全な状態のバックアップは暗号化されます。

バックアップ ポリシーと構成のエクスポート ポリシーの FSM タスク

[Policy Backup & Export] タブでバックアップ ポリシーと設定エクスポート ポリシーの両方を設定し、両方のポリシーに同じホスト名を使用すると、Cisco UCS Manager は[Backup Configuration] ページで1つのバックアップ操作のみを作成して両方のタスクを実行します。それぞれのポリシー実行には、個別の FSM タスクがありません。

各ポリシーの個別の FSM タスクを表示するには、DNS サーバに同じ FTP/TFTP/SCP/SFTP サーバを指すようにホスト名エイリアスを作成できます。次に、バックアップ ポリシーに1つのホスト名を使用し、設定エクスポート ポリシーに別のホスト名を使用できます。

バックアップ操作とインポート操作に必要なユーザロール

バックアップ操作とインポート操作を作成し、実行するには、管理ロールを持つユーザアカウントが必要です。

バックアップ操作の作成

はじめる前に

バックアップサーバの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスおよび認証クレデンシヤルを取得します。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2 [All] ノードをクリックします。
- ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Actions] 領域の [Backup Configuration] をクリックします。
- ステップ 5 [Backup Configuration] ダイアログボックスで、[Create Backup Operation] をクリックします。
- ステップ 6 [Create Backup Operation] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Admin State] フィールド	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : [OK] をクリックするとすぐに、Cisco UCS Manager によってバックアップ操作が実行されます。 • [Disabled] : [OK] をクリックしても、Cisco UCS Manager によってバックアップ操作は実行されません。このオプションを選択すると、ダイアログボックスのすべてのフィールドが表示されたままになります。ただし、[Backup Configuration] ダイアログボックスからバックアップを手動で実行する必要があります。

名前	説明
[Type] フィールド	<p>バックアップコンフィギュレーションファイルに保存された情報。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Full state] : システム全体のスナップショットが含まれるバイナリファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、ディザスタリカバリ時にシステムを復元できます。このファイルにより、元のファブリックインターコネクト上で設定を復元または再構築できます。また、別のファブリックインターコネクト上で設定を再現することもできます。このファイルは、インポートには使用できません。 <p>(注) Full State バックアップファイルを使用した場合にのみ、バックアップファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [All configuration] : すべてのシステム設定と論理設定が含まれるXMLファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリックインターコネクトまたは別のファブリックインターコネクトにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。このファイルには、ローカル認証されたユーザのパスワードは含まれません。 • [System configuration] : ユーザ名、ロール、ロケールなどのすべてのシステム設定が含まれるXMLファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリックインターコネクトまたは別のファブリックインターコネクトにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。 • [Logical configuration] : サービスプロファイル、VLAN、VSAN、プール、ポリシーなどのすべての論理設定が含まれるXMLファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリックインターコネクトまたは別のファブリックインターコネクトにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。

名前	説明
[Preserve Identities] チェックボックス	<p>このチェックボックスは、バックアップ操作の [All Configuration] および [System Configuration] タイプで選択されたままになり、次の機能が提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [All Configuration] : vHBA、WWPN、WWNN、vNIC、MAC、UUID などのプールから取得したすべての ID がバックアップファイルに保持されます。また、シャーシ、FEX、ラック サーバの ID と、シャーシ、FEX、ラック サーバ、IOM、ブレードサーバのユーザラベルも保持されます。 (注) このチェックボックスが選択されていない場合、ID は再び割り当てられ、ユーザラベルは復旧後に失われます。 • [System Configuration] : シャーシ、FEX、ラックサーバの ID と、シャーシ、FEX、ラックサーバ、IOM、ブレードサーバのユーザラベルがバックアップファイルに保持されます。 (注) このチェックボックスが選択されていない場合、ID は再び割り当てられ、ユーザラベルは復旧後に失われます。 <p>このチェックボックスがバックアップ操作の [Logical Configuration] で選択されている場合は、vHBA、WWPN、WWNN、vNIC、MAC、UUID などのプールから取得したすべての ID がバックアップファイルに保持されます。 (注) このチェックボックスが選択されていない場合、ID は再び割り当てられ、ユーザラベルは復旧後に失われます。</p>

名前	説明
<p>[Location of the Backup File] フィールド</p>	<p>バックアップファイルの保存場所。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Remote File System] : バックアップ XML ファイルはリモート サーバに保存されます。Cisco UCS Manager GUI によって次に示すフィールドが表示され、リモートシステムのプロトコル、ホスト、ファイル名、ユーザ名、パスワードを指定できます。 • [Local File System] : バックアップ XML ファイルはローカルに保存されます。 <p>Java ベースの Cisco UCS Manager GUI に [Filename] フィールドおよび関連付けられた [Browse] ボタンが表示され、バックアップファイルの名前と場所を指定できます。</p> <p>(注) [OK] をクリックした後、場所は変更できません。</p> <p>HTML ベースの Cisco UCS Manager GUI に [Filename] フィールドが表示されます。バックアップファイルの名前を <filename>.xml 形式で入力します。ファイルがダウンロードされ、ブラウザの設定に応じた場所に保存されます。</p>
<p>[Protocol] フィールド</p>	<p>リモートサーバとの通信時に使用するプロトコル。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FTP • TFTP • SCP • SFTP • [USB A] : ファブリック インターコネクト A に挿入された USB ドライブ。 このオプションは特定のシステム設定でしか使用できません。 • [USB B] : ファブリック インターコネクト B に挿入された USB ドライブ。 このオプションは特定のシステム設定でしか使用できません。

名前	説明
[Hostname] フィールド	<p>バックアップファイルが格納されている場所のホスト名または IP アドレス (IPv4 または IPv6)。これは、サーバ、ストレージアレイ、ローカルドライブ、またはファブリックインターコネクタがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどがあります。</p> <p>(注) IPv4 または IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていないか、DNS 管理が [local] に設定されている場合、DNS サーバを Cisco UCS Manager に設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていないか、DNS 管理が [global] に設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p>
[Remote File] フィールド	<p>バックアップ コンフィギュレーション ファイルのフルパス。このフィールドには、ファイル名とパスを含めることができます。ファイル名を省略すると、バックアップ手順によって、ファイルに名前が割り当てられます。</p>
[User] フィールド	<p>システムがリモートサーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>
[Password] フィールド	<p>リモートサーバのユーザ名のパスワード。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p> <p>Cisco UCS Manager ではこのパスワードは保存されません。そのため、バックアップ操作をすぐにイネーブルにして、実行する予定がない限り、このパスワードを入力する必要はありません。</p>

ステップ 7 [OK] をクリックします。

ステップ 8 Cisco UCS Manager に確認ダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。
[Admin State] フィールドをイネーブルに設定すると、Cisco UCS Manager によって、選択した設定タイプのスナップショットが取得され、ファイルがネットワークの場所にエクスポートされます。
[Backup Configuration] ダイアログボックスの [Backup Operations] テーブルに、バックアップ操作が表示されます。

ステップ 9 (任意) バックアップ操作の進行状況を表示するには、次の操作を実行します。

- a) [Properties] 領域に操作が表示されない場合、[Backup Operations] テーブルの操作をクリックします。
- b) [Properties] 領域で、[FSM Details] バーの下矢印をクリックします。

[FSM Details] 領域が展開され、操作のステータスが表示されます。

- ステップ 10** [OK] をクリックし、[Backup Configuration] ダイアログボックスを閉じます。バックアップ操作は完了するまで実行し続けます。進捗を表示するには、[Backup Configuration] ダイアログボックスを再度開きます。

バックアップ操作の実行

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2** [All] ノードをクリックします。
- ステップ 3** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Actions] 領域の [Backup Configuration] をクリックします。
- ステップ 5** [Backup Configuration] ダイアログボックスの [Backup Operations] テーブルで、実行するバックアップ操作をクリックします。
選択されたバックアップ操作の詳細が [Properties] 領域に表示されます。
- ステップ 6** [Properties] 領域で、次のフィールドに値を入力します。
- [Admin State] フィールドで、[Enabled] オプション ボタンをクリックします。
 - TFTP を除くすべてのプロトコルについて、ユーザ名に対応するパスワードを [Password] フィールドに入力します。
 - (任意) その他の使用可能なフィールドでコンテンツを変更します。
(注) スケジュールバックアップを毎週から毎日に変えるなど、他のフィールドを変更する場合は、ユーザ名とパスワードを再入力する必要があります。これを行わないと、FI のバックアップは失敗します。
- ステップ 7** [Apply] をクリックします。
Cisco UCS Manager は、選択された設定タイプのスナップショットを作成し、ファイルをネットワークの場所にエクスポートします。[Backup Configuration] ダイアログボックスの [Backup Operations] テーブルに、バックアップ操作が表示されます。
- ステップ 8** (任意) バックアップ操作の進捗状況を確認するには、[FSM Details] バーの下矢印をクリックします。
[FSM Details] 領域が展開され、操作のステータスが表示されます。
- ステップ 9** [OK] をクリックし、[Backup Configuration] ダイアログボックスを閉じます。バックアップ操作は完了するまで実行し続けます。進捗を表示するには、[Backup Configuration] ダイアログボックスを再度開きます。

バックアップ操作の変更

バックアップ操作を修正して、別のバックアップタイプのファイルをその場所に保存したり、前のバックアップファイルが上書きされないようにファイル名を変更したりすることができます。



- (注) Full State バックアップファイルを使用した場合にのみ、バックアップファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元できます。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ2 [All] ノードをクリックします。
- ステップ3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ4 [Actions] 領域の [Backup Configuration] をクリックします。
- ステップ5 [Backup Configuration] ダイアログボックスの [Backup Operations] 領域で、変更するバックアップ操作をクリックします。
選択されたバックアップ操作の詳細が [Properties] 領域に表示されます。バックアップ操作がディセーブル状態の場合、このフィールドはグレー表示されています。
- ステップ6 [Admin State] フィールドで、[enabled] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ7 該当するフィールドを変更します。
バックアップ操作をただちに実行する場合を除き、パスワードを入力する必要はありません。
- ステップ8 (任意) バックアップ操作を今すぐに行わない場合は、[Admin State] フィールドの [disabled] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ9 [OK] をクリックします。

1つまたは複数のバックアップ操作の削除

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2 [All] ノードをクリックします。
- ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Actions] 領域の [Backup Configuration] をクリックします。
- ステップ 5 [Backup Configuration] ダイアログボックスの [Backup Operations] テーブルで、削除するバックアップ操作をクリックします。
- ヒント 操作の管理状態が [Enabled] に設定されている場合、テーブルでバックアップ操作をクリックすることはできません。
- ステップ 6 [Backup Operations] テーブルのアイコン バーの [Delete] アイコンをクリックします。
- ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ 8 [Backup Configuration] ダイアログボックスで、次のいずれかをクリックします。

オプション	説明
Apply	ダイアログボックスを閉じずに、選択したバックアップ操作を削除します。
[OK]	選択したバックアップ操作を削除し、ダイアログボックスを閉じます。

バックアップタイプ

Cisco UCS Manager および Cisco UCS Central で、次のバックアップのタイプのうちの1つ以上を実行できます。

- [Full state] : システム全体のスナップショットが含まれるバイナリファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、ディザスタリカバリ時にシステムを復元できます。このファイルにより、元のファブリックインターコネクト上で設定を復元または再構築できます。また、別のファブリックインターコネクト上で設定を再現することもできます。このファイルは、インポートには使用できません。



(注) Full State バックアップファイルを使用した場合にのみ、バックアップファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元できます。

- **[All configuration]** : すべてのシステム設定と論理設定が含まれる XML ファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリックインターコネクタまたは別のファブリックインターコネクタにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。このファイルには、ローカル認証されたユーザのパスワードは含まれません。
- **[System configuration]** : ユーザ名、ロール、ロケールなどのすべてのシステム設定が含まれる XML ファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリックインターコネクタまたは別のファブリックインターコネクタにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。
- **[Logical configuration]** : サービスプロファイル、VLAN、VSAN、プール、ポリシーなどのすべての論理設定が含まれる XML ファイル。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、これらの設定を元のファブリックインターコネクタまたは別のファブリックインターコネクタにインポートできます。このファイルは、システムの復元には使用できません。

Full State バックアップポリシーの設定

はじめる前に

バックアップサーバの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスおよび認証クレデンシャルを取得します。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2 [All] ノードをクリックします。
- ステップ 3 [Work] ペインで、[Backup and Export Policy] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Full State Backup Policy] 領域で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Hostname] フィールド	<p>ポリシーのバックアップファイルが格納されている場所のホスト名またはIPアドレス（IPv4またはIPv6）。これは、サーバ、ストレージアレイ、ローカルドライブ、またはファブリックインターコネクタがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどがあります。</p> <p>(注) IPv4 または IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていないか、DNS 管理が [local] に設定されている場合、DNS サーバを Cisco UCS Manager に設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていないか、DNS 管理が [global] に設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p>
[Protocol] フィールド	<p>リモートサーバとの通信時に使用するプロトコル。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FTP • TFTP • SCP • SFTP • [USB A] : ファブリック インターコネクタ A に挿入された USB ドライブ。 このオプションは特定のシステム設定でしか使用できません。 • [USB B] : ファブリック インターコネクタ B に挿入された USB ドライブ。 このオプションは特定のシステム設定でしか使用できません。
[User] フィールド	<p>システムがリモートサーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>
[Password] フィールド	<p>リモートサーバのユーザ名のパスワード。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>

名前	説明
[Remote File] フィールド	ポリシーのバックアップファイルのフルパス。このフィールドには、ファイル名とパスを含めることができます。ファイル名を省略すると、バックアップ手順によって、ファイルに名前が割り当てられます。
[Admin State] フィールド	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : Cisco UCS Manager は [Schedule] フィールドで指定されたスケジュールを使用して、すべてのポリシー情報をバックアップします。 • [Disabled] : Cisco UCS Manager はポリシー情報をバックアップしません。
[Schedule] フィールド	Cisco UCS Manager がポリシー情報をバックアップする頻度。
[Max Files] フィールド	Cisco UCS Manager が保持するバックアップファイルの最大数。この値は変更できません。
[Description] フィールド	バックアップポリシーの説明。デフォルトの説明は [Database Backup Policy] です。 256 文字以下で入力します。次を除く任意の文字またはスペースを使用できます。` (アクセント記号)、\ (バックスラッシュ)、^ (キャラット)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または' (一重引用符) は使用できません。

ステップ 5 (任意) [Backup/Export Config Reminder] 領域で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Admin State] カラム	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : 指定時間内にバックアップが実行されない場合、Cisco UCS Manager はエラーを発生させます。 • [Disable] : 指定時間内にバックアップが実行されない場合、Cisco UCS Manager はエラーを発生させません。
[Remind Me After (days)] 列	バックアップの実行に関するリマインダ通知を受け取るまでの日数。1 ~ 365 の整数を入力します。 デフォルト値は 30 日間です。

ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。

All Configuration エクスポート ポリシーの設定

はじめる前に

バックアップ サーバの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスおよび認証クレデンシャルを取得します。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。

ステップ 2 [All] ノードをクリックします。

ステップ 3 [Work] ペインで、[Policy Backup & Export] タブをクリックします。

ステップ 4 [Config Export Policy] 領域で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Hostname] フィールド	<p>設定のバックアップファイルが格納されている場所のホスト名または IP アドレス (IPv4 または IPv6)。これは、サーバ、ストレージアレイ、ローカルドライブ、またはファブリック インターコネクタがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどがあります。</p> <p>(注) IPv4 または IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていないか、DNS 管理が [local] に設定されている場合、DNS サーバを Cisco UCS Manager に設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていないか、DNS 管理が [global] に設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p>

名前	説明
[Protocol] フィールド	<p>リモートサーバとの通信時に使用するプロトコル。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FTP • TFTP • SCP • SFTP <ul style="list-style-type: none"> • [USB A] : ファブリック インターコネクト A に挿入された USB ドライブ。 このオプションは特定のシステム設定でしか使用できません。 • [USB B] : ファブリック インターコネクト B に挿入された USB ドライブ。 このオプションは特定のシステム設定でしか使用できません。
[User] フィールド	<p>システムがリモートサーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>
[Password] フィールド	<p>リモートサーバのユーザ名のパスワード。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。</p>
[Remote File] フィールド	<p>バックアップ コンフィギュレーション ファイルのフルパス。このフィールドには、ファイル名とパスを含めることができます。ファイル名を省略すると、バックアップ手順によって、ファイルに名前が割り当てられます。</p>
[Admin State] フィールド	<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : Cisco UCS Manager は [Schedule] フィールドで指定されたスケジュールを使用して、すべてのポリシー情報をバックアップします。 • [Disabled] : Cisco UCS Manager はポリシー情報をバックアップしません。
[Schedule] フィールド	<p>Cisco UCS Manager がポリシー情報をバックアップする頻度。</p>

名前	説明
[Max Files] フィールド	Cisco UCS Manager が保持する設定のバックアップ ファイルの最大数。 この値は変更できません。
[Description] フィールド	設定のエクスポート ポリシーの説明。デフォルトの説明は [Configuration Export Policy] です。 256 文字以下で入力します。次を除く任意の文字またはスペースを使用できます。` (アクセント記号)、\ (バックスラッシュ)、^ (キャラット)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または' (一重引用符) は使用できません。

ステップ 5 (任意) [Backup/Export Config Reminder] 領域で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Admin State] カラム	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : 指定時間内にバックアップが実行されない場合、Cisco UCS Manager はエラーを発生させます。 • [Disable] : 指定時間内にバックアップが実行されない場合、Cisco UCS Manager はエラーを発生させません。
[Remind Me After (days)] 列	バックアップの実行に関するリマインダ通知を受け取るまでの日数。1 ~ 365 の整数を入力します。 デフォルト値は 30 日間です。

ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。

インポート方法

次のいずれかの方法を使用して、Cisco UCS によるシステム設定のインポートおよびアップデートを実行できます。

- [Merge] : インポートされたコンフィギュレーションファイルの情報は、既存の設定情報と比較されます。 矛盾が存在する場合、インポートされたコンフィギュレーションファイルの情報で Cisco UCS ドメインの情報が上書きされます。

- [Replace] : 現在の設定情報が、インポートされたコンフィギュレーションファイルの情報で一度に1つのオブジェクトについて置き換えられます。

インポート設定

Cisco UCSからエクスポートされたコンフィギュレーションファイルをインポートできます。ファイルは、同じCisco UCSからエクスポートされたものである必要はありません。



(注) 上位のリリースから下位のリリースに設定をインポートすることはできません。

インポート機能は、すべてのコンフィギュレーションファイル、システムコンフィギュレーションファイル、および論理コンフィギュレーションファイルで使用できます。インポートは、システムがアップ状態で、稼働中に実行できます。インポート操作によって情報が変更されるのは、管理プレーンだけです。インポート操作によって行われる一部の变更（サーバに割り当てられたvNICに対する変更など）により、サーバのリブートまたはトラフィックを中断する他の動作が行われることがあります。

インポート操作はスケジュールできません。ただし、インポート操作を前もって作成し、そのインポートの実行準備が整うまで管理状態をディセーブルのままにしておくことはできます。Cisco UCSは、管理状態がイネーブルに設定されるまで、コンフィギュレーションファイルに対してインポート操作を実行しません。

インポート操作は、コンフィギュレーションバックアップファイルを保存する場所ごとに1つしか保持できません。

インポート操作の作成

完全状態バックアップファイルはインポートできません。次のコンフィギュレーションファイルのいずれもインポートできます。

- All コンフィギュレーション
- システム設定
- Logical コンフィギュレーション

はじめる前に

コンフィギュレーション ファイルをインポートするには、次の情報を収集します。

- バックアップ サーバの IP アドレスおよび認証クレデンシャル
- バックアップ ファイルの完全修飾名

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ2 [All] ノードをクリックします。
- ステップ3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ4 [Actions] 領域で、[Import Configuration] をクリックします。
- ステップ5 [Import Configuration] ダイアログボックスで、[Create Import Operation] をクリックします。
- ステップ6 [Create Import Operation] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Admin State] フィールド	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : [OK] をクリックするとただちに、Cisco UCS Manager によってバックアップ操作が実行されます。 • [Disabled] : [OK] をクリックしても、Cisco UCS Manager によってバックアップ操作が実行されません。このオプションを選択すると、ダイアログボックスのすべてのフィールドが表示されたままになります。ただし、インポートは [Import Configuration] ダイアログボックスから手動で実行する必要があります。
[Action] フィールド	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Merge] : 設定情報が既存の情報とマージされます。競合する場合、現在のシステム上の情報が、インポート設定ファイル内の情報に置き換えられます。 • [Replace] : インポート設定ファイル内の各オブジェクトが採用され、現在の設定内の対応するオブジェクトは上書きされます。

名前	説明
[Location of the Import File] フィールド	<p>インポートするバックアップファイルが置かれている場所。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Remote File System] : バックアップ XML ファイルはリモートサーバに保存されています。Cisco UCS Manager GUI によって次に示すフィールドが表示され、リモートシステムのプロトコル、ホスト、ファイル名、ユーザ名、パスワードを指定できます。 • [Local File System] : バックアップ XML ファイルはローカルに保存されています。Cisco UCS Manager GUI に [Filename] フィールドとそれに関連する [Browse] ボタンが表示され、インポートするバックアップファイルの名前と場所を指定できます。
[Protocol] フィールド	<p>リモートサーバとの通信時に使用するプロトコル。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FTP • TFTP • SCP • SFTP • [USB A] : ファブリック インターコネクト A に挿入された USB ドライブ。 このオプションは特定のシステム設定でしか使用できません。 • [USB B] : ファブリック インターコネクト B に挿入された USB ドライブ。 このオプションは特定のシステム設定でしか使用できません。
[Hostname] フィールド	<p>コンフィギュレーションファイルのインポート元のホスト名、IPv4 または IPv6 アドレス。</p> <p>(注) IPv4 または IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていないか、DNS 管理が [local] に設定されている場合、DNS サーバを Cisco UCS Manager に設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていないか、DNS 管理が [global] に設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p>

名前	説明
[Remote File] フィールド	XML コンフィギュレーション ファイルの名前。
[User] フィールド	システムがリモートサーバへのログインに使用する必要があるユーザ名。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。
[Password] フィールド	リモートサーバのユーザ名のパスワード。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。 Cisco UCS Manager ではこのパスワードは保存されません。したがって、インポート操作をイネーブルにしてただちに実行する場合を除き、このパスワードを入力する必要はありません。

ステップ 7 [OK] をクリックします。

ステップ 8 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

[Admin State] をイネーブルに設定した場合、Cisco UCS Manager は、ネットワークの場所から設定ファイルをインポートします。選択した処理に応じて、ファイル内の情報が既存の設定と結合されるか、既存の設定と置き換えられます。インポート操作は、[Import Configuration] ダイアログボックスの [Import Operations] テーブルに表示されます。

ステップ 9 (任意) インポート操作の進捗状況を表示するには、次の手順を実行します。

- a) [Properties] 領域にインポート操作が自動的に表示されない場合は、[Import Operations] テーブルでインポート操作をクリックします。
- b) [Properties] 領域で、[FSM Details] バーの下矢印をクリックします。
[FSM Details] 領域が展開され、操作のステータスが表示されます。

ステップ 10 [OK] をクリックして、[Import Configuration] ダイアログボックスを閉じます。

インポート操作は、終了するまで実行されます。進捗状況を表示するには、[Import Configuration] を再度開きます。

インポート操作の実行

完全状態バックアップファイルはインポートできません。次のコンフィギュレーションファイルのいずれもインポートできます。

- All コンフィギュレーション
- システム設定
- Logical コンフィギュレーション

手順

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2** [All] ノードをクリックします。
- ステップ 3** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Actions] 領域で、[Import Configuration] をクリックします。
- ステップ 5** [Import Configuration] ダイアログボックスの [Import Operations] テーブルで、実行する操作をクリックします。
選択されたインポート操作の詳細が [Properties] 領域に表示されます。
- ステップ 6** [Properties] 領域で、次のフィールドに値を入力します。
- [Admin State] フィールドで、[Enabled] オプション ボタンをクリックします。
 - TFTP を除くすべてのプロトコルについて、ユーザ名に対応するパスワードを [Password] フィールドに入力します。
 - (任意) その他の使用可能なフィールドでコンテンツを変更します。
- ステップ 7** [Apply] をクリックします。
Cisco UCS Manager によって、ネットワークの場所からコンフィギュレーション ファイルがインポートされます。選択した処理に応じて、ファイル内の情報が既存の設定と結合されるか、既存の設定と置き換えられます。インポート操作は、[Import Configuration] ダイアログボックスの [Import Operations] テーブルに表示されます。
- ステップ 8** (任意) インポート操作の進捗状況を確認するには、[FSM Details] バーの下矢印をクリックします。
[FSM Details] 領域が展開され、操作のステータスが表示されます。
- ステップ 9** [OK] をクリックして、[Import Configuration] ダイアログボックスを閉じます。
インポート操作は、終了するまで実行されます。進捗状況を表示するには、[Import Configuration] を再度開きます。
-

インポート操作の変更

手順

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2** [All] ノードをクリックします。
- ステップ 3** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Actions] 領域で、[Import Configuration] をクリックします。
- ステップ 5** [Import Configuration] ダイアログボックスの [Import Operations] 領域で、変更するインポート操作をクリックします。

選択されたインポート操作の詳細が [Properties] 領域に表示されます。インポート操作がディセーブル状態の場合、このフィールドはグレー表示されています。

- ステップ 6 [Admin State] フィールドで、[enabled] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 7 該当するフィールドを変更します。
インポート操作をただちに実行する場合を除き、パスワードを入力する必要はありません。
- ステップ 8 (任意) インポート操作を今すぐに行わない場合は、[Admin State] フィールドの [disabled] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 9 [OK] をクリックします。

1 つまたは複数のインポート操作の削除

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2 [All] ノードをクリックします。
- ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Actions] 領域で、[Import Configuration] をクリックします。
- ステップ 5 [Backup Configuration] ダイアログボックスの [Import Operations] テーブルで、削除するインポート操作をクリックします。
ヒント 操作の管理状態が [Enabled] に設定されている場合、テーブルでインポート操作をクリックすることはできません。
- ステップ 6 [Import Operations] テーブルのアイコンバーの [Delete] アイコンをクリックします。
- ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ 8 [Import Configuration] ダイアログボックスで、次のいずれかをクリックします。

オプション	説明
Apply	ダイアログボックスを閉じずに、選択したインポート操作を削除します。
OK	選択したインポート操作を削除し、ダイアログボックスを閉じます。

システムの復元

この復元機能は、ディザスタ リカバリに使用できます。

Cisco UCS からエクスポートされた任意の完全な状態のバックアップ ファイルからシステム設定を復元できます。このファイルは、復元するシステム上の Cisco UCS からエクスポートされたものでなくてもかまいません。別のシステムからエクスポートされたバックアップ ファイルを使用して復元する場合、ファブリック インターコネクット、サーバ、アダプタ、および I/O モジュールまたは FEX 接続を含めて、同じまたは同様のシステム設定およびハードウェアを持つシステムを使用することを推奨します。ハードウェアまたはシステム設定が一致しない場合、復元されたシステムが完全には機能しないことがあります。2つのシステムの I/O モジュール リンク間またはサーバ間に不一致がある場合、復元操作後にシャーシまたはサーバまたはその両方を承認します。

この復元機能は、完全な状態のバックアップ ファイルにだけ使用できます。完全な状態のバックアップ ファイルはインポートできません。復元は、初期システムセットアップで実行します。詳細については、該当する『Cisco UCS Central Installation and Upgrade Guide』を参照してください。



(注) Full State バックアップ ファイルを使用した場合にのみ、バックアップ ファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元できます。

ファブリック インターコネクットの設定の復元

バックアップ ファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元するには、Full State バックアップ ファイルを使用することを推奨します。同じリリーストレインの場合でも、Full State バックアップ を使用してシステムを復元できます。たとえば、リリース 2.1(3a) を実行しているシステムから作成した Full State バックアップ を使用して、リリース 2.1(3f) を実行するシステムを復元できます。

VSAN または VLAN 設定の問題を回避するには、バックアップ時にプライマリ ファブリック インターコネクットであったファブリック インターコネクットでバックアップを復元する必要があります。

はじめる前に

システム設定を復元するには、次の情報を収集します。

- ファブリック インターコネクット管理ポートの IPv4 アドレスとサブネット マスク、または IPv6 アドレスとプレフィックス
- デフォルトのゲートウェイの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス
- バックアップ サーバの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスと認証クレデンシャル
- Full State バックアップ ファイルの完全修飾名



(注) システムを復元するには、Full State コンフィギュレーション ファイルへのアクセスが必要です。その他のタイプのコンフィギュレーション ファイルやバックアップ ファイルでは、システムを復元できません。

手順

- ステップ 1** コンソール ポートに接続します。
- ステップ 2** ファブリック インターコネクットがオフの場合はオンにします。
ファブリック インターコネクットがブートする際、Power On Self-Test のメッセージが表示されま
す。
- ステップ 3** インストール方式プロンプトに `gui` と入力します。
- ステップ 4** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合、次の情報を入力するよう求められることがあ
ります。
- ファブリック インターコネクットの管理ポートの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス
 - ファブリック インターコネクットの管理ポートのサブネット マスクまたはプレフィックス
 - ファブリック インターコネクットに割り当てられたデフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレス
または IPv6 アドレス
- ステップ 5** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager GUI 起動ページに
移動します。
- ステップ 6** 起動ページで [Express Setup] を選択します。
- ステップ 7** [Express Setup] ページで [Restore From Backup] を選択し、[Submit] をクリックします。
- ステップ 8** [Cisco UCS Manager Initial Setup] ページの [Protocol] 領域で、完全な状態のバックアップ ファイル
をアップロードするために使用するプロトコルを選択します。
- SCP
 - TFTP
 - FTP
 - SFTP
- ステップ 9** [Server Information] 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
Server IP	完全な状態のバックアップファイルがあるコン ピュータの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。 これは、サーバ、ストレージレイ、ローカル ドライブ、またはファブリック インターコネク トがネットワーク経由でアクセス可能な任意の 読み取り/書き込みメディアなどがあります。

名前	説明
Backup File Path	フォルダ名やファイル名など、完全な状態のバックアップファイルがあるファイルのパス。 (注) Full State バックアップ ファイルを使用した場合にのみ、バックアップファイルのエクスポート元のシステムと同じバージョンを実行しているシステムを復元できます。
User ID	システムがリモートサーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。
[Password]	リモートサーバのユーザ名のパスワード。このフィールドは、プロトコルが TFTP または USB の場合は適用されません。

ステップ 10 [Submit] をクリックします。
コンソールに戻ってシステム復元の進捗状況を確認できます。

ファブリック インターコネクットはバックアップサーバにログインし、指定された完全な状態のバックアップファイルのコピーを取得し、システム設定を復元します。

クラスタ設定の場合、セカンダリファブリックインターコネクットを復元する必要はありません。セカンダリファブリックインターコネクットがリブートすると、Cisco UCS Manager はただちにその設定をプライマリファブリックインターコネクットと同期させます。

